

東京都立農産高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 数学 科目 数学Ⅰ

教科 数学 科目 数学Ⅰ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 N 組

使用教科書：（ 数Ⅰ708 実教出版株式会社 高校数学Ⅰ ）

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学Ⅰ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数と式、二次関数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	式の計算 【知識及び技能】 ・多項式の加減、減法の計算ができる。 ・指数法則や分配法則を用いて、多項式の展開ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・未知数を文字を使った式で表現できる。 ・式の展開と分配法則の関係を考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・単項式、多項式の式の整理を工夫することで、最適化することを学ぶ。 ・多項式の乗法には、数の場合と同様に分配法則が使えることに興味をもち、考察する。	・文字を含んだ式のきまり ・整式 ・整式の加法・減法 ・整式の乗法	【知識・技能】 ・文字を使った式で数量を表すことの必要性を理解している。 単項式や多項式、次数、同類項など式に関する用語を理解している。 【思考・判断・表現】 ・ある数について、文字を使った式で表現しようとしている。 ・式の展開と分配法則の関係を考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・単項式、多項式とその整理の仕方に関心をもち、考察している。 ・多項式の乗法には、数の場合と同様に分配法則が使えることに関心をもち、考察している。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	乗法公式 因数分解 【知識及び技能】 ・指数法則や分配法則を用いて、多項式の展開ができる。 ・因数分解の公式を利用できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・式の展開と分配法則の関係を考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・多項式の乗法には、数の場合と同様に分配法則が使えることに興味をもち、調べようとする。	・乗法公式による展開 ・因数分解	【知識・技能】 ・指数法則や分配法則を用いて、多項式の展開している。 ・展開の公式を利用している。 ・因数分解の公式を利用している。 【思考・判断・表現】 ・展開の公式の導き方を、面積図を使って考察しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・多項式の乗法には、数の場合と同様に分配法則が使えることに関心をもち、調べようとしている。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1

2 学 期	実数 【知識及び技能】 ・根号を含む式の加法、減法、乗法の計算ができる。 ・絶対値の意味と記号表示を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・根号を含む式の乗法の計算に、展開の公式を適用することができる。・実数の絶対値を、数直線上で原点からの距離として考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・今まで学習してきた数の体系について整理し、調べようとする。	・平方根とその計算 ・実数	実数 【知識・技能】 ・根号を含む式の加法、減法、乗法の計算している。 ・絶対値の意味と記号表示を理解している。 【思考・判断・表現】 ・根号を含む式の乗法の計算に、展開の公式を適用している。 ・実数の絶対値を、数直線上で原点からの距離として考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・今まで学習してきた数の体系について整理し、調べようとしている。	○	○	○	17
	定期考査			○	○		1
	1次不等式、1・2次方程式 【知識及び技能】 ・1次方程式、1次不等式、2次方程式を解くことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・数量の大小関係を式で表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・不等式の性質について、等式の性質と比較し調べようとする。	・1次不等式 ・1・2次方程式	【知識・技能】 ・1次方程式を理解している。 ・1次不等式を理解している。 ・2次方程式を理解している。 【思考・判断・表現】 ・数量の大小関係を式で表現している。 ・不等式の性質を、数直線上の点と対応させて考察している。 ・不等式の性質を基に、1次不等式を解く方法を考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・不等式の性質について、等式の性質と比較して、考察しようとしている。 ・1次不等式の解き方について、1次方程式の解き方と比較して、調べようとしている。	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
3 学 期	2次関数 【知識及び技能】 ・関数について理解できる。 ・2次関数のグラフを書くことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・2つの数量の関係を関数の式で表現することができる。 ・関数を表、式、グラフによって考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・日常の事象の中に関数を見つけ、調べようとする。	・関数について復習する。 ・放物線の形や軸、頂点 ・ $y=ax^2$ のグラフ ・ $y=ax^2+q$ のグラフ ・ $y=a(x-p)^2$ のグラフ ・ $y=a(x-p)^2+q$ のグラフ	【知識・技能】 ・関数について理解している。 ・座標について理解している。 ・放物線の形や軸、頂点について理解している。 ・ $y=ax^2$ のグラフを理解している。 ・ $y=ax^2+q$ のグラフを理解している。 ・ $y=a(x-p)^2$ のグラフを理解している。 ・ $y=a(x-p)^2+q$ のグラフを理解している。 【思考・判断・表現】 ・2つの数量の関係を関数の式で表現している。 ・関数を表、式、グラフによって考察している。 ・ $y=ax+b$ のグラフを $y=ax$ のグラフをy軸方向に平行移動したものとみて考察している。 ・ $y=a(x-p)^2+q$ のグラフについて、x軸方向、y軸方向の平行移動の組み合わせをみて考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・日常の事象の中に関数を調べようとしている。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
							合計
							78

東京都立農産高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 数学 科目 数学Ⅰ

教科： 数学 科目： 数学Ⅰ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 N 組

使用教科書：（ 数Ⅰ 708 実教出版株式会社 高校数学Ⅰ ）

教科 数学 の目標：

- 【知識及び技能】
- 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】
- 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】
- 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学Ⅰ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数と式、2次関数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	2次関数の値の変化 【知識及び技能】 ・2次関数の最大値・最小値を理解できる。 ・2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・定義域に制限がある2次関数の最大値・最小値について考察できる。 ・日常の事象について、2次関数の最大値・最小値を利用して考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ $D=b^2-4ac$ の符号を用いると、2次関数のグラフ・2次方程式の関係がまとめられることに興味をもち、 D の式を用いてグラフと共有点の個数を考察する。	・2次関数の最大値・最小値 ・2次関数のグラフと2次方程式	【知識・技能】 ・2次関数の最大値・最小値を理解している。 ・2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解している。 【思考・判断・表現】 ・定義域に制限がある2次関数の最大値・最小値について考察している。 ・日常の事象について、2次関数の最大値・最小値を利用して考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・2次関数の値の変化に関心をもち、具体的な事象の考察に2次関数の最大・最小を活用している。 ・ $D=b^2-4ac$ の符号を用いると、2次関数のグラフ・2次方程式の関係がまとめられることに興味をもち、 D の式を用いてグラフと共有点の個数を考察している。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	2次関数の値の変化 【知識及び技能】 ・2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、グラフを用いて2次不等式の解を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・2次不等式を解く際に、簡単に因数分解できない2次式について、2次方程式の解の公式を利用して考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ $D=b^2-4ac$ の符号を用いると、2次関数のグラフ・2次方程式・2次不等式の関係がまとめられることに興味をもち、 D の式を用いてグラフと共有点の個数を考察する。	・2次関数のグラフと2次不等式	【知識・技能】 ・2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、グラフを用いて2次不等式の解を理解している。 【思考・判断・表現】 ・2次不等式を解く際に、簡単に因数分解できない2次式について、2次方程式の解の公式を利用して考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ $D=b^2-4ac$ の符号を用いると、2次関数のグラフ・2次方程式・2次不等式の関係がまとめられることに興味をもち、 D の式を用いてグラフと共有点の個数を考察している。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1

2 学 期	三角比 【知識及び技能】 ・ 割り算と分数と比の関係について理解できる。 ・ 三角比の定義を理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ 測量の問題に三角比を活用することができる。 ・ 拡張された三角比を、座標平面に図示して考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ 三角比の相互関係を調べようとする。 ・ 鈍角の三角比が座標平面を利用して定義される理由に関心をもち、考察する。	・ 三角形 ・ 三角比 ・ 三角比の利用 ・ 三角比の相互関係	【知識・技能】 ・ 割り算と分数と比の関係について理解している。 ・ 三角比の定義を理解している。 【思考・判断・表現】 ・ 測量の問題に三角比を活用している。 ・ 拡張された三角比を、座標平面に図示して考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ 三角比の相互関係を調べている。 ・ 鈍角の三角比が座標平面を利用して定義される理由に関心をもち、考察している。	○	○	○	17
	定期考査			○	○		1
	【知識及び技能】 ・ 正弦定理や余弦定理について理解し、三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。 ・ 三角比を用いて三角形の面積を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ 正弦定理や余弦定理を導く過程を考察できる。 ・ 日常の事象について、正弦定理や余弦定理を利用して高さや距離が求められることを考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ 余弦定理と三平方の定理の関係に関心をもち、 ・ 正弦定理や余弦定理を利用することで、実測が難しい距離などを求められることに関心をもち、調べる。	・ 三角比の拡張 ・ 三角形の面積 ・ 正弦定理 ・ 余弦定理 ・ 正弦定理と余弦定理の利用	【知識・技能】 ・ 座標を用いて、平面上の点を表したり、2点間の距離や線分の内分点、外分点を求める。 ・ 2つの直線の平行条件および垂直条件を理解し、2つの直線の位置関係について基礎的な知識を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・ 座標を用いて平面上の点を表すことのよさをとらえ、いろいろな図形の考察している。 ・ 座標を用いて、2点間の距離や線分の内分点、外分点について考察している。 ・ 2つの直線が平行であるための条件や垂直であるための条件を考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ 直線が2元1次方程式で表せることに関心をもち、いろいろな直線を式で表そうとしている。 ・ 2つの直線の位置関係に関心をもち、調べようとしている。	○	○	○	16
定期考査			○	○		1	
3 学 期	集合と要素 【知識及び技能】 ・ 集合に関する基本的な概念を理解できる。 ・ 2つの集合の和集合・共通部分を求めることができる。 ・ 命題に関する基本的な概念を理解し、簡単な命題の真偽を調べることができる。 ・ 必要条件、十分条件、必要十分条件について理解できる。 ・ 命題の逆や対偶をつくることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ 集合と命題の関係を考察できる。 ・ 対偶などを利用して、簡単な命題を証明することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ 具体的な事象を、集合で表すことのよさについて理解できる。 ・ 身の回りの話題から、命題を考察して、必要条件、十分条件、必要十分条件を積極的に調べようとする。	・ 集合と要素 ・ 命題 ・ いろいろな証明法	【知識・技能】 ・ 集合に関する基本的な概念を理解している。 ・ 2つの集合の和集合・共通部分の求め方が身についている。 ・ 必要条件、十分条件、必要十分条件について理解している。 【思考・判断・表現】 ・ 集合と命題の関係を考察している。 ・ 対偶などを利用して、簡単な命題を証明している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ 具体的な事象を、集合で表すことのよさについて理解しようとしている。 ・ 身の回りの話題から、命題を考察して、必要条件、十分条件、必要十分条件を積極的に調べようとしている。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
合計							78

東京都立農産高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 数学 科目 数学A

教科 科： 数学 科目： 数学A 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 N

使用教科書：（ 数A 708 実教出版株式会社 高校数学A ）

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学A の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
場合の数と確率、図形の性質についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	集合、場合の数 【知識及び技能】 ・集合の概念を理解する。順列の定義を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・集合と要素について考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・集合の考えについて興味をもち、いろいろな集合を表そうする。 ・様々な場合の数を求めることに興味・関心をもつ。	・集合と要素 ・集合の要素の個数	【知識・技能】 ・集合の要素の個数について関係式を理解し、補集合の要素の個数や和集合の要素の個数を理解している。 【思考・判断・表現】 ・集合と要素について考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・集合の考えについて興味をもち、いろいろな集合を表そうする。様々な場合の数を求めることに興味・関心をもとうとしている。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	場合の数 【知識及び技能】 ・和の法則・積の法則を理解し、それぞれの法則を用いて場合の数を求めることができる。 ・順列と組合せの考え方を理解し、それらの総数を計算することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・順列と組合せの考え方を利用して、場合の数の求め方について考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・順列や組合せの考え方を利用することに関心をもつ。 ・順列や組合せの考え方を利用して、身の回りの事象の場合の数を調べようとする。	・場合の数 ・順列	【知識・技能】 ・和の法則・積の法則を理解し、それぞれの法則を用いて場合の数を求めようとしている。 ・順列と組合せの考え方を理解し、それらの総数を計算をしている。 【思考・判断・表現】 ・順列と組合せの考え方を利用して、場合の数の求め方について考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・順列や組合せの考え方を利用して、身の回りの事象の場合の数を調べようとしている。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1

- 【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学Ⅱ の目標：			
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】	
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	乗法公式・因数分解・分数式 【知識及び技能】 乗法公式や因数分解の公式を理解できる。 ・分数式を計算できる。 【思考力、判断力、表現力等】 乗法公式と因数分解公式を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・乗法公式や因数分解の公式について関心をもち、調べようとする。 ・分数式について関心をもち、調べようとする。	・整式の乗法 ・因数分解 ・分数式	【知識・技能】 乗法公式や因数分解の公式を理解している。 ・分数式を計算している。 【思考・判断・表現】 乗法公式と因数分解公式を考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・乗法公式や因数分解の公式について関心をもち、調べようとしている。 ・分数式について関心をもち、調べようとしている。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	複素数 【知識及び技能】 ・複素数の四則計算ができる。 ・複素数の範囲で2次方程式の解を求めたり、判別式を利用して2次方程式の解の判別ができる。 ・解と係数の関係を利用して、式の値を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・数を複素数まで拡張する過程を考察することができる。 ・2次方程式の解について判別式を用いて考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・数の体系を複素数まで拡張する意義に気づくとともに、数を拡張していく過程に関心をもち、調べようとする。 ・複素数の範囲で2次方程式の解に関心をもち、判別式を活用して2次方程式の解について調べようとする。	・複素数 ・2次方程式 ・解と係数の関係	【知識・技能】 ・複素数の四則計算している。 ・複素数の範囲で2次方程式の解を求めたり、判別式を利用して2次方程式の解の判別を理解している。 ・解と係数の関係を利用して、式の値を求めている。 【思考・判断・表現】 ・数を複素数まで拡張する過程を考察している。 ・2次方程式の解について判別式を用いて考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・数の体系を複素数まで拡張する意義に気づくとともに、数を拡張していく過程に関心をもち、調べようとしている。 ・複素数の範囲で2次方程式の解に関心をもち、判別式を活用して2次方程式の解について調べようとしている。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1

2 学 期	剰余の定理 【知識及び技能】 ・整式の除法について、商と余りの関係を理解できる。 ・高次方程式の解法について、因数分解の公式や因数定理を用いて考察することができる。 【思考力・判断力・表現力等】 ・剰余の定理・因数定理を整式の除法や高次方程式の解法と関連づけて理解し、基礎的な知識を身に付ける。 ・整式の除法について、商と余りの関係を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・整式の除法に関心をもつ。 ・剰余の定理や因数定理に関心を持ち、高次方程式の解法に活用しようとする。	・整式の除法 ・剰余の定理と因数定理	【知識・技能】 ・整式の除法について、商と余りの関係を理解している。 ・高次方程式の解法について、因数分解の公式や因数定理を理解している。 【思考・判断・表現】 ・剰余の定理・因数定理を整式の除法や高次方程式の解法と関連づけて理解し、基礎的な知識を身に付けている。 ・整式の除法について、商と余りの関係を考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・整式の除法に関心をもつ。 ・剰余の定理や因数定理に関心をもち、高次方程式の解法に活用しようとしている。	○	○	○	17
	定期考査			○	○		1
	図形と方程式 【知識及び技能】 ・座標を用いて、平面上の点を表したり、2点間の距離や線分の内分点、外分点を求めることができる。 ・2つの直線の平行条件および垂直条件を理解し、2つの直線の位置関係について理解できる。 【思考力・判断力・表現力等】 ・座標を用いて平面上の点を表すことのよさをとらえ、いろいろな図形の考察できる。 ・座標を用いて、2点間の距離や線分の内分点、外分点について考察することができる。 ・2つの直線が平行であるための条件や垂直であるための条件を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・直線が2元1次方程式で表せることに関心を持ち、いろいろな直線を式で表そうとする。 ・2つの直線の位置関係に関心を持ち、調べようとする。	・内分点 ・外分点 ・直線の方程式	【知識・技能】 ・座標を用いて、平面上の点を表したり、2点間の距離や線分の内分点、外分点を求めている。 ・2つの直線の平行条件および垂直条件を理解し、2つの直線の位置関係について基礎的な知識を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・座標を用いて平面上の点を表すことのよさをとらえ、いろいろな図形の考察している。 ・座標を用いて、2点間の距離や線分の内分点、外分点について考察している。 ・2つの直線が平行であるための条件や垂直であるための条件を考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・直線が2元1次方程式で表せることに関心を持ち、いろいろな直線を式で表そうとしている。 ・2つの直線の位置関係に関心をもち、調べようとしている。	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
3 学 期	円と方程式 【知識及び技能】 ・具体的に与えられた条件の下で円を式で表すことができる。 ・方程式を用いて円と直線の位置関係を調べたり円と直線の交点を求めたりすることができる。 ・不等式で表される領域を図示したり、与えられた領域を不等式で表したりすることができる。 【思考力・判断力・表現力等】 ・不等式と平面上の図形との関係について考察することができる。 ・円と直線の位置関係と、連立方程式の解との関係を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・x、yについての不等式がいろいろな図形を表すことに関心を持ち、調べようとする。 ・円を方程式で表すことに関心を持ち、いろいろな円を式で表そうとする。	・円の方程式 ・円と直線の距離 ・不等式の領域 ・円で分けられる領域 ・直線で分けられる領域 ・連立不等式の表す領域	【知識・技能】 ・具体的に与えられた条件の下で円を式を理解している。 ・方程式を用いて円と直線の位置関係を調べたり円と直線の交点を理解している。 ・不等式で表される領域を図示したり、与えられた領域を不等式で表している。 【思考・判断・表現】 ・不等式と平面上の図形との関係について考察している。 ・円と直線の位置関係と、連立方程式の解との関係を考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・x、yについての不等式がいろいろな図形を表すことに関心を持ち、調べようとしている。 ・円を方程式で表すことに関心を持ち、いろいろな円を式で表そうとしている。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1